

第1回 国際コンテナ戦略港湾政策推進ワーキンググループ

議事概要

日時：令和2年8月19日（水）14：00～16：00

場所：中央合同庁舎2号館 共用会議室5

1. 国際コンテナ戦略港湾政策の取組状況、港湾・海運を取り巻く近年の状況と変化や新型コロナウイルス感染症による港湾物流への影響を確認した上で、意見交換を行った。
2. 意見交換では、参加者から、以下のような意見があった。
 - ・ 集貨、創貨、競争力強化の3本柱の政策を推進することは重要と考えており、基幹航路が日本に寄港する際の障壁をより小さくすることが必要ではないか。
 - ・ これまでに実施した政策に対して、国際基幹航路の日本への寄港回数や寄港した船舶の大きさ等にどのような効果があったかを検証することが重要ではないか。
 - ・ 国際フィーダー航路網の拡充は、温室効果ガス削減の観点からも、非常に重要であり促進していくべきであるが、補助に依存していると継続的な拡充は困難ではないか。
 - ・ 日本海側の港湾から国際コンテナ戦略港湾への集貨について、船舶による輸送だけでなく鉄道等の輸送も含め検討すべきではないか。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、東南アジアから米国に輸出される貨物が日本の港で一部トランシップされているため、これを定着させることが重要ではないか。
 - ・ 日本は米国との輸出入について、地理的に競争相手である東アジアの港湾と比較して有利な条件にあり、その条件を生かすためにも、日本の港での積み替えのコストが障害とならないような政策の検討が必要ではないか。
 - ・ 産業構造として、日本で生産し輸出する貨物は、高度な技術を

必要とする高付加価値な精密部品となることが大きな流れの一つ。他国のように多くの貨物量を運ぶというだけではなく、何を運ぶのかという点での検討も重要ではないか。

- 創貨の取組について、より日本から輸出される貨物を増加できるように他省庁と連携し、海外から企業を誘致することも重要ではないか。
 - 船舶の入出港コスト低減に資するとん税・特別とん税の特別措置は良い取組であるが、その他の入出港コストも更なる低減に向けた取組が必要ではないか。
 - 大型化している国際基幹航路の日本への寄港を促進するためにも、寄港する船舶に適応できる荷役機械を整備することが重要ではないか。
 - 今後の労働者不足を考慮しながらも、A I等の活用を含め現在の港湾サービスをどのように維持・向上させていくかという検討が重要ではないか。
 - CONPAS等のシステムをアジアに展開することで、海外の港湾サービスも向上し、それらの国から日本への集貨も促進されるのではないか。
3. 今後の進め方については、本年秋頃に第2回を開催し、第1回の意見を踏まえた分析等を基に、今後の新たな課題について議論することとなった。
4. 座長は、山崎 朗 中央大学経済学部教授が務めることとなった。

以 上